

大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第4回 学生交流委員会
議事次第

日 時：2023年 2月10日（金）持ち回り開催

回答期限：2023年 2月15日（水）正午

委 員 校：神戸常盤大学（委員長校）、神戸親和女子大学（副委員長校）、芦屋大学、
関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、
神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女学院大学、神戸市看護大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、
神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学（計 25 校）

1. 審議事項

(1) 2023年度 事業計画・予算について（資料1）

各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案（参考資料）

2. 報告事項

(1) なし

以上

2023年1月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中井 伊都子

2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）
の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、2023年度事業計画の作成にあたっては、2022年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。また、委員長校・副委員長校が交代する委員会におかれましては、新旧の委員長校・副委員長校にて適宜連携のうえ作成していただき、2023年度の委員長校からご提出いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2023年度事業計画・予算（案）

提出期限：2023年2月15日（水）正午

※第6回理事会(1/19)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：400万円

(2) 2022年度事業報告・決算（案）

提出期限：2023年3月31日（金）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2023年度事業計画・予算（案）」

2023年 3月30日 第7回理事会にて審議・決定

2023年 5月（予定）定時総会にて報告

(2) 「2022年度事業報告・決算（案）」

2023年 4月（予定）2023年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程

2023年 5月（予定）定時総会にて審議・決定

(添付書類)

- ・添付1) 2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2023年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2022年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2023年度 学生交流委員会 事業計画】

提出日:2023年 月 日

委員長校 :

副委員長校:

委員校:

(委員校は、加盟校からの2023年度申請を踏まえ、事務局にて更新致します)

<目的> 委員会全体の「総論的な目的」(ねらい)

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」
・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。

取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」
・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容> 全体から見た、小プログラムの組み立て方について

取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。

【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施
他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BEプロジェクト」の総称で位置付け、実施する(例:地元企業・団体等と連携した取組など)。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、コンソHPへの記事掲載を計画・実施する。掲載文等を考えることで自主性や文書構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットのいずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

<期待される効果> 下記すべてのプログラムを行うことで、得られる「総論的な効果」
他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。

【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文書構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。
上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	円
取組2	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	円

2023年度 学生交流委員会 事業予算(案)

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算		
		取組1		取組2				
		WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」		学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」		内訳	予算額	
		内訳	予算額	内訳	予算額			
内容 全体から見た、小プログラム	会費収入	1,350,000		1,010,000		240,000	100,000	
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	0						
	プログラム収入	0						
	雑収入	円						
	戻入金	円						
	計	1,350,000		1,010,000		240,000	100,000	
	支出	会議費	110,000	交流会・反省会	100,000			会議費
旅費交通費		740,000	交通費・昼食費	700,000	交通費・昼食費	30,000	旅費交通費	10,000
通信運搬費		20,000			通信費	10,000	通信費	10,000
消耗品費		20,000	消耗品	10,000			消耗品	10,000
新聞図書費		0						
印刷製本費		0						
光熱水料費		0						
賃借料		0						
保険料		0						
謝金		250,000	講師等謝金	50,000	謝金・原稿料等	200,000		
租税公課		0						
支払手数料		30,000					振込手数料	30,000
諸会費		150,000	ブース等出店料	150,000				
委託費		30,000					各プログラムHPIに係る予備費	30,000
人件費		0						
接待交際費		0						
支払支援金		0						
雑費	0							
計	1,350,000		1,010,000		240,000		100,000	

収入－支出	0
-------	---

■2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

<自己評価基準>

対照目標 4：当初計画を上回って達成できた 3：当初計画を達成できた 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った --：判定不能
 対照状況 4：本プログラムは継続するべきである 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続は改善が必要だ 1：本プログラムは中止するべきだ

委員会	中長期計画Ⅲ期		プログラム名称	活動概要	自己評価 判定/継続	改善提案	活動数値と進捗状況(2022年11月末現在)		(参考) 中長期計画		
	柱	課題					2022年度活動目標	2022年度活動実績	達成目標	2022年度時点実績	
国際 交流 委員会	柱2	「ひまわり神戶」の国際性を活かした グローバル教育支援	④外国人留学生と日本人学生等の 交流促進	兵庫国際交流会館における 国際交流拠点推進事業の実施	JASSO委託事業 2019年9月～25年まで受託 大学連携での国際交流拠点活動 実施	4/4	・コロナ禍の影響を注視しながら、イベント類にオンラインの特性と対面の特性を視認し、効果的に多くの参加者に利 便的な学生発着型プログラムを進行している。さらに、外国人留学生と日本人学生の学生交流促進、企業・産 業・フロンティア・産学連携と行い、国際性を充実させることで、地域の力、留学生、加担校内外の学生が交流する 機会を創出している。以上のことから今後の更なる活動に期待する。	各年参加者数500名以上	1,174名 (11月末時点)	94%以上の国際理解	
				学生海外派遣プログラム	学生の海外派遣による 医療・衛生国際理解 医療研修コース(米国・オーストラ リア)・看護コース(米国・オーストラ リア)	1/4	昨春以降、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、これまで参加学生の満足度は高く、来年度以降も継続して開催するこ とを期待する。	プログラム数10件以上	新型コロナウイルスによる制限期間の為 プログラムの中止	本プログラムへの参加を通じて国際 理解が深まったことを実感する学生の 割合： 参加学生の80%以上 (期間中2回測定)	
				模擬国連演習 NMUN (National Model United Nations)	「模擬国連世界大会 (NMUN)」	3/4	「模擬国連世界大会 (NMUN)」は、海外から集まった学生と交流を図る貴重な機会であるので、今後も更なる活動に 期待する。	17名 (神戸市外国語大学) 2名 (神戸市立大学) 1名 (兵庫県立大学)	100%の国際理解		
学生 交流 委員会	柱1	地域の活性化に資する 人材育成のための連携	③大学の枠を超えた 学生間の交流・活動促進	WILL BEアピット テーマ別の学生交流プロジェクト	・地元企業と連携した地域活動 地域学生と交流促進事業での ボランティア活動 ・ワイフ・アンド・キッズ スポーツ イベント	3/4	地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への関与が、所属大学の学内活動だけでなく様々な情報が、学生 自身の成長に繋がるというメリットがあるため、今後も更なる活動に期待する。また、「地域学生と交流促進」P72生 の参加者としてのボランティア活動については、加担校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できており、 個人・の学生ボランティアや地域活動へのニーズも広がりつつあり、加担校全体で学生を育てることも つながりつつあり、今後更なる活動に期待する。	参加加担校数10校以上/年	34校 (11月末時点)	各年参加者数50名以上	151名 (11月末時点)
				学生発信プロジェクト 加担校・学生の地域活性化に 関する取組(企画)	HP、SNS、メディア等に加担校の 学生の地域活動を公開	3/3	コロナHP上で「地域で輝く学生」と題して活動の様子を掲載し、WILL BEアピットの活動や広報をフェイスブ ックやSNSを通じて発信しており、イベントと連携した活動周知が行われており、次年度も引き続き、本プログラムに際り 取り組んでいきたい。	各加担校からの情報提供/年1回 以上 情報公開数40件以上/年	40件/年 (予定)	情報公開数200件以上	200件以上/5年間 (予定)
				単位互換事業	単位互換事業の実施	4/4	・授業形態の多様化により、昨年度修得者29名から本年度42名(対前31、非対前11【オンデマンド10、オン デマンドオンライン併用1】)となり、大幅に履修者を増やす結果となった。 ・教育のIC化により単位互換事業も新たな段階に入られ、今後の学生へ多様な学習の機会を提供し続けてい くことを期待する。	進出し校数 5校/年	・履修者：8大学42名 (対前31名、非対前11名)	各年開校校数：10校以上	単位互換開校校数：85校
教育 連携 委員会	柱3	国内大学の教育・研究の 質を高める多元的学習の提供	⑦大学間連携による多様な 教育ニーズへの対応	多様な学習機会の提供事業	「大学e-learning協議会」連携協 賛システム)の提供、公開講座の 開設	3/3	加担校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加担校の公開講座を広く開放し、多様な学生の交流を促進し、 学習機会の創出を図る取組を行っている。また、オンラインクラスについても、加担校全体に開校し、加担校全体のICTを活用した教育資源の向上の相乗 効果を行う取組している。	参加者数50名以上/年	実施プログラム数17件 参加者数160名 (11月末時点)	各年プログラム数5件以上	実施プログラム数17件 参加者数160名 (11月末時点)
				大学キャリアセンターと連携した 国内大学生の地元就職促進 プロジェクト	兵庫国際産学教育連携推進事業 国内企業合同説明会 国内企業紹介動画 合同模擬グループディスカッション等	3/4	・意見交換会では大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供することで、現在の地域ニーズ等を共有し、現 状を踏まえた就職活動支援を学生に行うことで、学生の国内企業理解向上に繋いでいる。 ・国内企業経営者、若手社員の交流により、学生と企業間の理解が深まる機会を得ている。対企業 (教職員・学生)のニーズ等を検証のうえ、来年度の事業の委託に向けて準備を進めていきたい。	各年参加者数500名以上 (学生：450名以上 教職員：50名以上)	参加学生：60名、教職員：53名 (11月末時点) 今後開催イベントへの参加見込み 学生：約400名、教職員：50名	本プログラムへの参加を通じて 兵庫国内企業理解が深まったことを 実感する学生の割合 ：参加学生の70%以上	事後アンケート結果「国内企業への 理解が深まった」79%
				国内企業・団体等の魅力を 情報発信	兵庫国内企業情報とコンソシアで 掲載「地元で働く」！兵庫事業 情報サイト	3/4	掲載企業数が、毎年活動指標を上回っている。また、今年度は追加情報として、留学生の採用情報、求められる日本 語能力などを掲載し、更なる情報の充実を予定している。引き続き加担校、国内企業と連携して、協力企業の開校及び 学生と有意味な情報共有の発着型の取組の構築について、引き続き取り組んでいきたい。	情報公開企業および留学生 採用情報の追加：15社	現在委員会キャリアセンターからの 推薦企業15社	情報公開企業・団体数120社以上	2022年3月時点で、兵庫県内協力 企業136社掲載中 本年度中に15社追加予定
キャリア 委員会	柱1	地域の活性化に資する 人材育成のための連携	①地域の活性化のための 国内企業への就職率の向上 (加担校学生と国内企業の マッチングに向けた連携)	留学生向け就職支援 キャリア教育プログラム (「ひまわり留学生インターンシップ」)	留学生に特化した インターンシップの機会提供	4/4	当該事業は兵庫県からの受託事業の一環として実施。また今年度で終了となる。「ひまわり留学生インターンシップ」 は日本での就職を希望する留学生にとって、また留学生を採用した地元企業にとっても過去4年間にわたり、成果をだ してきており、今後も引き続き、外部企業情報に向けて尽力していきいたい。実施は、HP等での情報発信、共有等の中 心に据える。当該プログラムを有効活用可能な取組を検討し、実施していきたい。	各年参加者数500名以上	実施学生：8大学43名 受入企業・団体数：22企業・団体	本プログラムへの参加を通じて 日本企業・文化理解が深まったことを 実感する学生の割合 ：参加学生の100%	
				留学生向け就職支援 キャリア教育プログラム (国内企業・海外企業展開に係る 留学生活用事業)	兵庫県企業労働力開発国際理解 受託事業 留学生向け合同企業説明会 日本企業理解促進プログラム の実施、留学生受入企業と大学の 情報交換会の実施	4/3	当該事業は兵庫県からの受託事業の一環として実施。また今年度で終了となる。外部企業情報に向けて尽力 していきいたい。実施は、「外国人留学生のための合同企業説明会」など、実施事業を改めて取り組んでいきたい。	2022年度実績としては 参加留学生数：1,315名 (11月末時点)	本プログラムへの参加を通じて 日本企業文化理解が深まったことを 実感する学生の割合 ：参加学生の91%		

■2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

<自己評価基準>

対照達成率 4：当初計画を上回って達成できた 3：当初計画を達成できた 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った --：判定不能

対照達成性 4：本プログラムは継続するべきである 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要だ 1：本プログラムは中止するべきだ

委員会	中長期計画中期		プログラム名称	活動概要	自己評価 到達/継続	改善提案	活動数値と進捗状況 (2022年11月末現在)		(参考) 中長期計画	
	柱	課題					2022年度活動目標	2022年度活動実績	達成目標	2022年度時点実績
高大連携委員会	柱1	地域の活性化に資する人材育成のための連携	② 県内大学と高等学校間の連携による内容豊富な高大連携	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひまわり高校大学コンソーシアム」	4/4	県下大学と高校の高大連携に関する課題を共有し、具体的な課題について意見交換を行うことで、高大一貫した教育の提供、人材育成の取り組みを推進していった。	意見交換会等の実施/年1回以上	実施予定：2022年12月12日(月) 13:30~16:30	各年参加校数20校以上	参加校19校、高校19校、計38校50名の参加申込
			加配校の魅力を提供発信	県内大学の情報提供合同進学説明会の開催	3/3	加配校と大学の意見交換の場である「ひまわり高校大学コンソーシアム」内で各教職員間の議論や意見をもとに、コンソーシアムホームページ上で加配校の情報発信等に取り組むことについて、次年度以降も継続していきたい。合同進学説明会は、加配校の二次定員のうち、継続の有無も含めて内容を検討していきたい。高校と大学の学びの連携、教育の連携の観点から、高校・高校生等に加配校の特長を広く情報提供することは、重要な課題であるため、実施していきたい。	大学コンソーシアムひまわり神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上	2023年1月~3月に、加配校から情報を収集し、年度内に提出予定	各年情報提供先数 高等学校等200所以上	2023年1月~3月に、加配校から情報を収集し、年度内に提出予定
FDSD委員会	柱3	県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供	④ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進	加配校が実施するFD・SDセミナーの公開	4/4	約半年間で活動数値である公開セミナー開催数5件以上は達成されている。しかしながら、活動目標「大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供すること」の成果として、当初期待されていた参加加配校の増加や参加の解消は進捗は遅いため、今後継続的に参加校への呼びかけを行い、広く本プラットフォームを活用していきたい。	参加者数100名以上/年	大学前大学158校 関西学院大学166名 神戸学院大学124名 神戸国際大学87名 兵庫大学151名 (計) 686名	各年セミナー5件以上	大学前大学14件 関西学院大学1件 神戸学院大学3件 神戸国際大学1件 兵庫大学1件 (計) 5大学7件
			FD・SD情報交換会セミナー等の開催	加配校教職員を対象とした大学教育に関する講演会等の開催(FD・SDトップセミナー) 「内部質保証システム」構築に向けた取り組みの推進	4/4	①FD・SDトップセミナーについては、今後の教育課題を明確化し、教育改善のための取り組みを待つことができれば、加配校の教職員の質向上を図るとともに、教職員間のみならず交流を促進できたことから、来年度も引き続き開催していきたい。 ②内部質保証システム構築に向けた取り組みの推進については、事務局が今学期に加配校へ参加可否を確認したところ、7校20名の方参加可能とのことであり、引き続き一定の需要が見込まれることから、次年度以降も継続して実施していきたい。	開催数：3回以上/年	①FD・SDトップセミナー(2022年8月3日開催) ②内部質保証システムに関するセミナー(2022年12月2日開催)③Excelによる統計分析研修(仮)(2023年2月開催予定)	各年参加者数50名以上	①FD・SDトップセミナー(2022年8月3日開催)113名参加
企業運営委員会	柱3	県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供	⑧ 県内大学を活用した、社会人の学びや成長の推進	リカレント教育の普及促進に向けた取組	4/4	各加配校において取組の促進が期待されるリカレント教育について、文部科学省、地元企業、賛助会員等と連携を図り、在習生連携で議論できる場を設けること、特約提携にも応募する取組も見える。加配校間でリカレント教育に関する共有と連携を図り、大学におけるリカレント教育の促進、機運の醸成に向けた取り組みを、次年度以降も継続していきたい。	大学・企業関係者による講義・意見交換会(年1回以上)	2022年11月31日開催	各年参加者数50名以上	78名
			加配校のリカレント教育に関する情報発信	県内大学のリカレント講座PR	4/4	加配校による多様な学び機会の提供、社会人の学びや成長の推進に関する取組の一つとして、次年度以降も加配校や産業界のニーズをもとに、その発展に寄与すべく、引き続き情報収集をさらに進めたい。	大学・企業関係者による講義・意見交換会(年1回以上)		各年参加校10校以上	11校30講座
柱4	県内大学が活性化化する大学連携組織としての運営体制の構築	⑥ 大学資源を活用する地域プラットフォームの形成	① 大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ② 参加校の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	3/4	企業運営委員会での懇話会については、定期的に実施し、在習生連携も拡充し、運営体制について意見交換を行っていただきたい。 本年急務として、緊急時連絡・連携体制については、より実効性を高めるための検討を引き続き行っていただきたい。	企業運営委員会等における懇話会の実施(年10回以上)	①企業運営委員会 9回実施 各取組計12回実施予定 ②在習生連携協議会・報告会 各1回実施 各事業との意見交換会 計2回実施予定	大学間連携の特長を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	企業運営委員会にて検討し、「緊急時連絡・連携体制」を構築	
		⑦ 県内大学が活性化化する事業運営体制の整備	加配校が活性化する事業運営体制の整備と推進	3/4	事業委員会の体制に関しては、選別制、輪番制での運用により、各校の状況を鑑みながら整備と推進を引き続き行っていただきたい。	企業運営委員会等における懇話会の実施(年10回以上)	①企業運営委員会 9回実施 年度内計12回実施予定	加配校の共通課題に協働して取組む事業運営体制の構築	事業委員会での議決の決定 選任方法として選別制・輪番制を決定	